



春の女神に見惚れて

4月8日(日)

春の女神と呼ばれる「ギフチョウ」の観察会が陶史の森で行われ、市内外から愛好家ら40人が参加しました。同森のネイチャーセンター長からギフチョウの説明を聞いたあと、女神の姿を写真に収めようと、多くのカメラマンたちが熱心にシャッターを切っていました。



“いざというとき” がやってくるから

4月8日(日)

地域の安全を守る消防団員として消防に必要な知識を学ぶための研修会が、市内3カ所の防災センターで行われました。団員は車両班、情報班、救護班に分かれ、市の消防職員を講師として、消防団員の身分と役割のほか、ポンプ構造、災害時の情報収集の方法や災害弱者への対応などを学びました。



森を守る みどりの少年団

4月19日(木)

鶴里小学校の6年生18人が、森林整備を体験しました。地域の山を知って欲しいという思いから、鶴里生産森林組合が指導し毎年行われているもので、緑色のスカーフと帽子を身に着けた「みどりの少年団」が、のこぎりを使って枝打ちを進めると、薄暗かった山の中に明かりが差し込みました。



春を告げる陶器まつり

4月21日(土)・22日(日)

「TOKI-陶器祭り」が、セラトピア土岐を中心とする会場で行われました。地元の窯元や商社などが出店した約30のテントに、お値打ちな商品を買求めるお客さんが詰め掛けたほか、素焼きの皿に模様を描く絵付け体験コーナーなどのイベントもあり、親子連れなどでにぎわいました。



Voice TOKI織部大賞
田中豊さん(常滑市)
賞をいただけて嬉しいです。作品に対して、やりたいことというのは始めたときからあるので、それをどのように自分の作品にするのか、ということに毎回試行錯誤しています。



「今を生きる」茶陶を

4月14日(土)

桜の花が咲き誇る中、セラトピア土岐で「第5回現代茶陶展」の表彰式が行われました。今回は、全国37都道府県から380点もの応募があり、大賞1点、優秀賞3点、奨励賞5点が選ばれました。審査委員長の林屋晴三さんは「千利休や古田織部たちは、桃山時代の今を生き、作家たちとの語り合いの中で茶の湯を大成させた。“現代”というものと茶の世界のコラボレーションを大切にしなければならない」と語り、受賞した若手作家たちに叱咤激励の言葉を贈りました。

これまで「現代茶陶展」は5年に1度の開催でしたが、今年から毎年開催されることになりました。より良き茶陶を。作家たちの挑戦はまだ続きます。



壁をきれいに飾ったよ

4月7日(土)

いずみ児童館では、集会室の壁を飾り付ける「壁画作り」が毎年4月に行われています。今年は、普段から児童館に通っている泉小学校・泉西小学校の2～6年生5人が参加しました。児童たちは、チョウの形をした色紙に思い思いの絵を描いて、バランスを見ながら壁に貼り付けました。